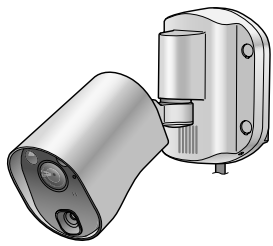


施工説明書

センサーライト付
屋外ワイヤレスカメラ

品番 **VL-WD812K**



(本書の表記: **本機**または**カメラ**)

設置作業は、設置後の安全に関わる重要な作業です。設置中および設置後の事故を防ぐため、工事は販売店または専門の工事店に依頼してください。

施工をされる方へ

- 施工説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」は、**施工前に必ずお読みください**。施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 電源プラグキャップおよび包装材料は、商品を取り出したあと適切に処理してください。
- 電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
- 施工終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。

付属品の確認

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

□スタンドベース.....1

□ねじ A (4 mm × 25 mm).....4

先端が尖ったねじ

スタンドベース
取り付け用

□ねじ B (4 mm × 20 mm).....4

先端が尖ってないねじ

本体と
スタンドベース
取り付け用

□ねじ C (4 mm × 25 mm)・
ワッシャー 各 1

先端が尖ったねじ

安全ワイヤー
の壁固定用

□防水ゴム1

既設配線用

□センサー範囲調整キャップ1 式

人感(熱)センサー
取り付け用

□へら1

本体装着の
センサー範囲
調整キャップ
取り外し用

□ねじ隠しカバー4

- へら、および使わなかったセンサー範囲調整キャップは、再調整のときのために、大切に保管してください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害
の程度を区分して、説明しています。

警告

「死亡や重傷を負う
おそれがある内容」です。

注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が
発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の
図記号で説明しています。

してはいけない
内容です。

実行しなければ
ならない内容です。

警告

火災・感電・漏電などを防ぐために

禁止

■分解・修理・改造しない
→ 修理は販売店にご相談ください。

■雷のときは配線工事をしない

■指定以外の機器は接続しない

■指定以外の端子に電源 (AC100 V) を接続しない

■設置・配線工事の際の壁への穴開けや、電源コードを固定する際は、屋内配線・屋内配管を傷つけない

■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100 V 以外での使用はしない
(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります)

■電源 (AC100 V) を入れたまま配線工事をしない

■電源コードを窓やドアなどにはさみ込まない
(電源コードに傷がつくと、ショートによる火災・感電の原因になります)

■電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない
・傷つける、加工する、熱器具に近づける、コードに過度なストレスを加える (無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)
(傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります)
→ 修理は販売店にご相談ください。

■AC100 V の電源直結工事は資格を持つ者が行う
→ 電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店へご相談ください。

■スタンドベースは「↑上」の表示が上になるように取り付け、取付面はスタンドベース下部以外を防水シール剤などでコーキングし、すきまを埋める
(上下を逆にしたり、防水が不完全な場合、内部に雨水などが入り、火災・感電の原因になります)

事故やけがなどを防ぐために

禁止

■医療機器の近くでの設置や使用をしない*
・手術室、集中治療室、CCU(冠状動脈疾患監視病室の略称) などには持ち込まない

■自動ドア、火災報知機などの自動制御機器の近くで設置や使用をしない*
(※本機からの電波が医療機器や自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります)

■不安定な場所、振動の多い場所、強度の弱い壁や天井には取り付けない
・石こうボード・コンクリートブロック・屋外に露出した木材・凹凸の激しい壁面・スタンドベースの横幅より狭い柱など
(落下によるけがや、雨水などの浸入による火災・感電の原因になります)

■センサー範囲調整キャップは乳幼児の手の届くところに置かない
(誤って飲み込むおそれがあります)
→ 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

注意

感電などを防ぐために

禁止

■土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない
(絶縁劣化により、感電の原因になることがあります)

■土中埋設配線する場合、電源コードや配線材などは、電線管などを使用して防水処理をする

けがなどを防ぐために

■安全ワイヤーを必ず取り付ける
(落下して、けがの原因になることがあります)

設置上のお願い

設置の前に

本機は、ドアホン親機と無線で通信を行います。
下記をよくお読みのうえ、電波が安定して届く場所に設置してください。

ドアホン親機・カメラ間の通信について

- 距離が離れていたり、100 m以内でも間に次のような障害物などがあると、電波が弱くなります。

・金属製のドアや雨戸

・複層ガラスの窓

・アルミはく入りの断熱材が入った壁

・壁を何枚もへだてたところ

・コンクリートやトタン製の壁

・各機器を、それぞれ別の階や家屋などで使うとき

このような場合、ドアホン親機では映像の乱れや更新の遅れが起きたり、音声の途切れが起きたりして、使えないことがあります。(このときカメラ側では、状態表示ランプが赤点灯または赤点滅します【☞】下記「カメラ(状態表示ランプ)による電波状態表示」)

- 上記のような場合、別売の中継アンテナ「KX-FKD2」を使ってドアホン親機からの電波を中継すると改善できることがあります。(詳しくは【☞】ドアホン親機の取扱説明書)

設置場所の電波状態を確認するには

■カメラを使って確認する

カメラをドアホン親機に登録すると、カメラの状態表示ランプでドアホン親機との電波状態を確認できます。

■テレビドアホンの子機を使って確認する

子機付きのテレビドアホンの場合、カメラの設置場所に子機を持って行き、子機を使ってドアホン親機との電波状態を確認できます。

カメラ(状態表示ランプ)による電波状態表示

強い

弱い

圏外

緑点灯

オレンジ点灯

赤点灯

赤点滅

この範囲で設置してください

子機による電波状態表示

強い

弱い

圏外

この範囲で設置してください

こんなところには設置しない

変形・変色、故障・動作障害などを避けるために…

●直射日光が当たる場所や外灯の真下など
(周囲が動作温度内でも局部的に高温になります)

●振動・衝撃や、反響の多い場所

●火気・熱器具や、磁石などの磁気の近く

●冷・暖房機(室外機を含む)の近く

●油污れがついたり、蒸気がかかる場所

●携帯電話など強い電波を発する製品の近く

●温度変化が激しい場所(結露しやすくなります)

●海岸の近くや直接潮風が当たる場所、温泉地の硫黄環境(塩害などにより製品寿命が短くなることがあります)

●テレビ、ラジオ、パソコンなどのOA機器、エアコン、給湯器リモコン(インターホン機能付き)、ホームセキュリティ関連装置の近く(ノイズ発生の原因)

●CSデジタル放送受信機器(チューナー、チューナー内蔵のデジタルテレビ、レコーダーなど)の近く
(CSデジタル放送の画像が乱れる原因)

●硫化水素、アンモニア、ほこり、有毒ガスなどの発生する場所

次の場所は、特に誤検知の原因になります

●狭い通路などで、真正面から人物が近づいてくるような場所

●車の交通量が多い道路がある場所
(約5 m 以上離れていても、車にはセンサーが反応します)

●風などで動くような植木、洗濯物などがある場所(温度や動きの変化による誤検知)

●換気扇、エアコンの室外機、給湯器などの風や、車の排気ガスなどの影響を受ける場所(急激な温度変化による誤検知)

●強風の吹く場所(カメラが風で振動するため、誤って動作検知することがあります)

●前方にガラスなど、温度変化の検知を妨げたり、反射するような障害物がある場所

●明るさが変わりやすい場所(昼間でも木陰などで影になる、夜でも外灯で明るくなるなど)

●下記のように逆光になる場所(人の顔が暗く映り、識別しにくくなります)

プライバシー・肖像権について

カメラの設置や利用については、ご利用になるお客様の責任で被写体のプライバシー、肖像権などを考慮のうえ、行ってください。

※「プライバシーは、私生活をみだりに公開されないという法的保障ない権利、もしくは自己に関する情報をコントロールする権利。また、肖像権は、みだりに他人から自らの容ぼう・姿態を撮影されたり、公開されない権利」と一般的に言われています。

電波について

- 本機は、1,895.616～1,902.528 MHz の帯域を使用する無線設備です。

本機には、1.9 GHz帯を使用するデジタルコードレス電話の無線局の無線設備で、時分割多元接続方式広帯域デジタルコードレス電話を示す右記のマークが表示されています。

1.9-D

(一般社団法人 電波産業会 標準規格「ARIB STD-T101」準拠)

- J-DECTロゴは、DECT Forumの商標です。
J-DECTのロゴはARIB STD-T101に準拠した1.9 GHz帯の無線通信方式を採用した機器であることを示しています。
同一ロゴを搭載する機器間での接続可否を示すものではありません。

J-DECT

- 本機の使用周波数に関わるご注意

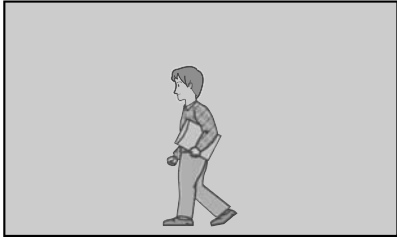

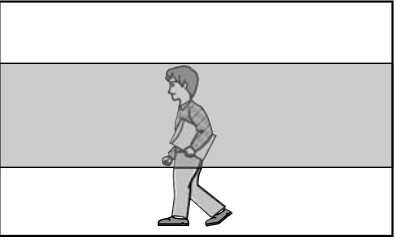

本機の使用周波数帯では、PHSの無線局のほか異なる種類のデジタルコードレス電話の無線局が運用されています。

1. 本機は同一周波数帯を使用する他の無線局と電波干渉が発生しないように考慮されていますが、万一、本機から他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、本機の電源プラグを抜いて、お客様ご相談センター(☎ ☎ 取扱説明書の裏表紙)にご連絡いただき、混信回避のための処置など(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
2. その他、何かお困りのことが起きたときは、お客様ご相談センター(☎ ☎ 取扱説明書の裏表紙)へお問い合わせください。

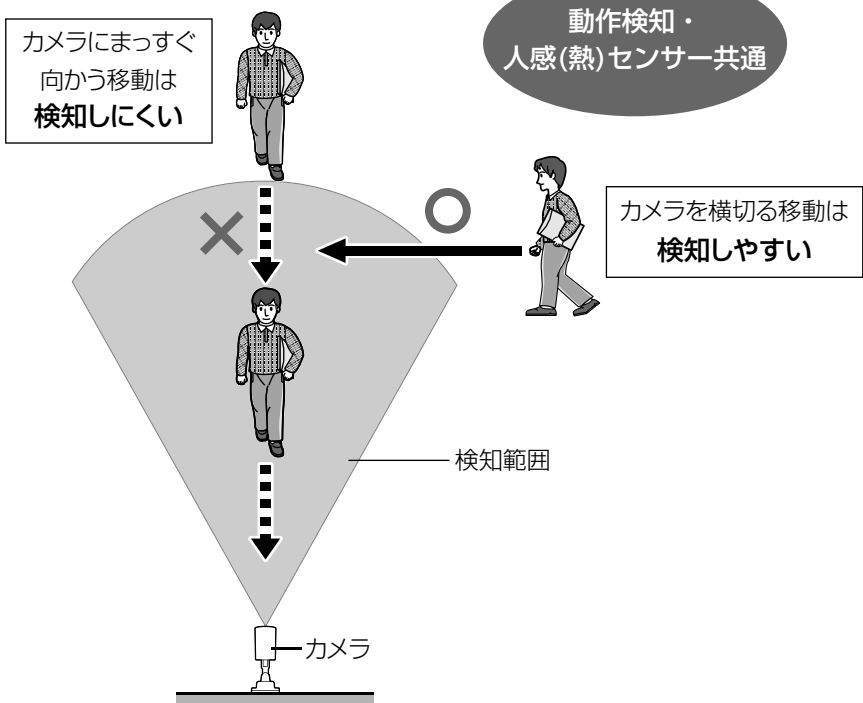
● センサーについて〈動作検知と人感(熱)センサー〉 ●

本機には、「動作検知」と「人感(熱)センサー」の2つのセンサーがあります。
特性を理解したうえで、適切な場所にカメラを設置してください。

● センサーの特性と検知範囲について ●

| | 動作検知 | 人感(熱)センサー |
|------|--|---|
| 検知方法 | 撮影範囲内の、動きの変化を検知 ●物体の輝度変化によって検知します。 | 撮影範囲内の、温度変化を検知 ●人や動物など、温度をもつものから自然に放射されている赤外線による温度変化を検知します。 |
| 主な特性 | 昼間、または明るい場所では検知しやすい ●動いている被写体と背景の色が似ているときは、動作を正しく検知しない場合があります。 ●外部照明の点灯時など、全体的に明るさが急変する場合は、誤って動作検知することがあります。 | 夜間や冬場など外気温が低いときは、被写体と外気温の差が大きくなり、検知しやすい ●昼間や夏場など外気温が体温に近くなると、検知しにくくなります。 ●車のマフラーやボンネットなどの外気温との差が大きいものにも反応するため、撮影方向に道路がある場合は、通行している車に反応することがあります。 |
| 検知範囲 | 撮影範囲全体  ●検知する範囲を絞り込むこともできます。 〔  裏面〕 〔動作検知の検知範囲設定を変える〕 | 撮影範囲の一部(中央の網掛け部)  ●検知する範囲を変更することもできます。 〔  裏面〕 〔人感(熱)センサーの角度を変える〕 〔センサー範囲調整キャップを使う〕 |

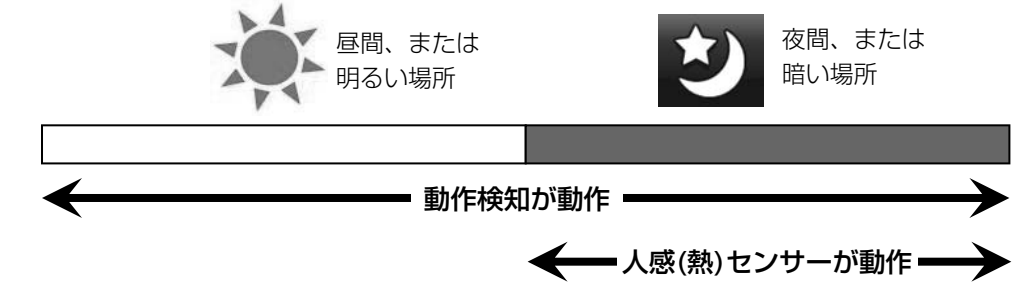
検知しやすい / 検知しにくい向き





- 動作検知、人感(熱)センサーは、常に高い信頼性を求められる用途には適していません。常に高い信頼性を求められる監視などの用途には、動作検知、人感(熱)センサーを使わないことをお勧めします。
- センサーを使うことによって生じた事故などの結果について、当社はその責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

● センサーの動作範囲について ●

お買い上げ時の設定の場合、本機のセンサーは、明るさの変化によって下記のように動作します。



- 明るさの判断は、映像の明るさに応じてカメラが自動で行います。設定により、明るさの変化(昼夜の判断)をタイマーで切り替えることもできます。
(取扱説明書15ページ「昼夜切り替え」設定)
- 設置環境などに応じて、動作検知を昼間のみ動作させたり、人感(熱)センサーを夜間のみ動作させたりするなど、設定を変更することもできます。
(取扱説明書14、15ページ「人感センサー検知モード」「動作検知モード」設定)



● 設置例①(住戸への訪問者の検知) ●

車道の車などは検知させず、玄関口(門)からの訪問者を検知したいとき

| 良い例 | 悪い例 |
|--------------------------------------|----------------------------|
| | |
| 〈撮影イメージ〉 | 〈撮影イメージ〉 |
| 訪問者は横向きに映りやすくなりますが、車道の車は誤検知しにくくなります。 | 撮影方向にある道路を通る車を誤検知しやすくなります。 |

訪問者を検知し、さらに正面から撮影したいときは、下記のように、市販の外部センサーをご使用ください。

設置参考例(市販の外部センサーを使用する)

市販の外部センサーを、本機の外部入力端子に接続して使うことができます。
●ご使用の際は、「センサー選択」設定の変更が必要です。(取扱説明書14ページ)
●「外部入力端子について」(右上)をお読みのうえ、端子の仕様に適した外部センサーを接続してください。

〈撮影イメージ〉

「センサー選択」設定で、外部センサーのみを使う設定にすると、撮影範囲にある車も誤検知しにくくなります。



● 設置例②(駐車場などへの侵入者の検知) ●

車道の車は検知させず、駐車場の中に入ってくる侵入者を検知したいとき

| 良い例 | 悪い例 |
|---|--------------------------|
| | |
| ●車高の高い車の場合、侵入者の顔が車に隠れないよう、カメラの設置位置や角度を調整してください。 | |
| 〈撮影イメージ〉 | 〈撮影イメージ〉 |
| 侵入者は横向きに映りやすくなりますが、車道の車は誤検知しにくくなります。 | 撮影方向にある車道の車を誤検知しやすくなります。 |

侵入者を検知し、さらに正面から撮影したいときは、下記のように、市販の外部センサーをご使用ください。

設置参考例(市販の外部センサーを使用する)

市販の外部センサーを、本機の外部入力端子に接続して使うことができます。
●ご使用の際は、「センサー選択」設定の変更が必要です。(取扱説明書14ページ)
●「外部入力端子について」(右上)をお読みのうえ、端子の仕様に適した外部センサーを接続してください。

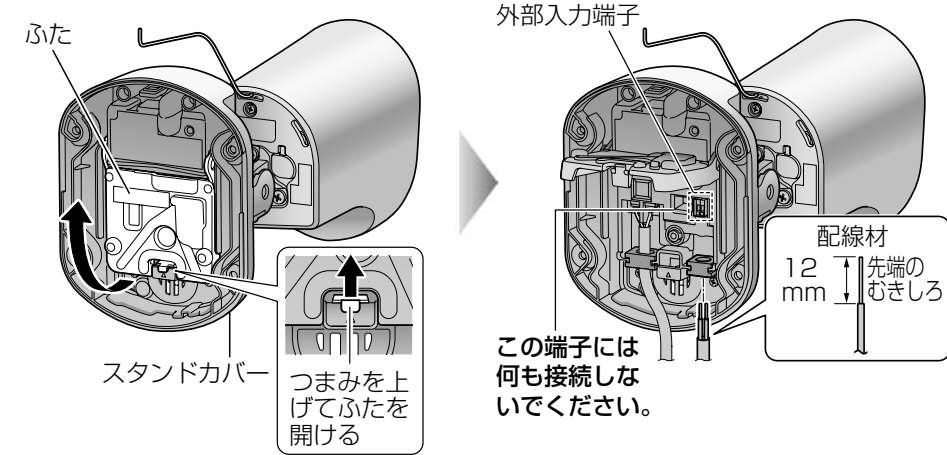
〈撮影イメージ〉

「センサー選択」設定で、外部センサーのみを使う設定にすると、撮影範囲にある車も誤検知しにくくなります。


● 外部入力端子について ●


市販の外部センサーを接続するための端子です。(スタンドカバー裏面のふたを開けたところにあります)

- 下記をよくお読みのうえ、端子の仕様に合った機器を接続してください。(端子への接続は、電源を切った状態で行ってください)



■外部入力端子の仕様

- 端子を短絡(または開放)すると検知します。
- 開放時電圧: 約9 V
- 短絡時電流: 約6 mA (短絡/開放 連続0.1秒以上で検知)
- 上記の定格に適合した市販の外部センサーを接続してください。接続機器に応じて接点方式(A接点/B接点)の変更ができます。
(取扱説明書17ページ「外部センサー接点」設定)

| 動作確認済みの外部センサー | |
|-------------------------------|---|
| 竹中エンジニアリング(株)製 品番: MS-100A | ●設置は、外部センサーに付属の説明書に従い、確実に行ってください。 ●ご使用の際は、「センサー選択」設定の変更が必要です。( 取扱説明書14ページ) |
| AC100V 配線が必要 | |

■線種と配線距離

下表の線種・配線距離以外で使用されると、動作不良の原因になります。

| 配線区間 | 線種 | 配線距離 |
|-------------|--------------------|--------------------------|
| 外部入力端子→接続機器 | 単芯線(mm): φ0.4~φ0.8 | 接続する機器の仕様に従う(ただし、20 m以内) |

● 工事について ●

- 電源について: 必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。
(1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
(2) 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 本機は電気設備技術基準による施工を行ってください。
 - 使用する埋込みボックスに、堅牢な隔壁(電源線とその他の信号配線材の間)を設ける。
 - 金属ボックスを使用する場合はD種接地を行う。
 - 配線材はAC600 V以上の絶縁電線を使用する。
- 屋外設置で電源プラグを使用するときは、本機の近くに屋外用の電源コンセントや電源ボックスを設置してください。(電源プラグは防水対応ではありません)
※電源コンセントや電源ボックスの設置については、配線工事業者へご相談ください。
- 空中配線はしないでください。(カメラが雷などの影響を受けることがあります)

カメラを登録する

- 設置の前に、下記の操作でドアホン親機に登録(増設)してください。
- 同時に複数のカメラを登録することはできません。1台ずつ登録してください。
 - ドアホン親機の操作はVL-SWD501KLの例です。
ご使用のテレビドアホンの取扱説明書をお読みください。

1 ドアホン親機の操作

ドアホン親機のトップメニューから
[設定/情報]→[設定を変更]→[登録/減設]→[登録]→[カメラ]の順にタッチし、右の画面が出たら、登録するカメラ番号をタッチする

続けて、約5分以内に下記の操作をする

2 カメラの操作(登録モードにする)

カメラの電源を入れた状態で、下記のように背面の登録ボタンを押す

- 登録ボタンは、ゴムカバーをめくったところにあります。

①ゴムカバーをめくって、登録ボタンを付属のへら(先が細いほう)で約3秒間押す

②ゴムカバーをしっかりと閉める

●登録中はカメラの状態表示ランプが緑点滅し、登録が完了すると「ピー」と鳴り、状態表示ランプが緑点灯に変わります。

3 終わったら、ドアホン親機の **終了** を押す

カメラを設置する

お願い

- 設置の前に必ず、カメラをドアホン親機に登録してください。(❷ 表面)
- 天井には、取り付けないでください。
- 雨どいなどから直接水がかかる場所を避けて設置してください。
- 壁への穴開け工事について、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 穴を開けた部分には必ず防水処理をしてください。
- カメラ本体に固定されている安全ワイヤーを使用して、必ず落下防止対策を行ってください。

外壁材の種類によって、使えるねじや取り付けかたが異なります。
取り付け前に必ず、外壁材の種類に応じた注意事項(❷ 右下部)をお読みください。

1 外壁材の種類に応じたねじ(4本)を使ってスタンドベースを壁面に取り付け、コーキングする

例) 外壁材がサイディングの場合

①付属のねじA(4 mm×25 mm、先端が尖ったねじ)4本でしっかり取り付ける※

②防水シール剤などで下部以外をコーキングする

46 mm

83.5 mm

垂直で平らな壁

防水シール剤

スタンドベース

下部は水抜き穴があるためコーキングしないでください。

※付属のねじB(長さ20 mm、先端が尖っていないねじ)で取り付けないでください。

電源コードを下側に
出すときは、この部分
のツメを折る

ツメ

●スタンドベースは「↑上」の表示が上になるように取り付け、上記のようにコーキングして、すきまを埋めてください。
(上下を逆にしたり、防水が不完全な場合、内部に雨水などが入り、火災・感電の原因になります)

2 電源線の直結や外部センサーの接続を行う場合 本体のスタンドカバー裏面にある ふたを右のように開けて、手順3へ

■上記以外の場合 手順5へ

3 AC100 V電源線を直結する場合のみ

カメラに電源線を接続する

①壁から出ているAC100 V電源線に、付属の防水ゴムを取り付ける

防水ゴム

②ドライバーの先などでボタンを押しながら付属の電源コードを取り外す

ボタン

③直結するAC100 V電源線を右のように接続する

電気工事士の資格がない方は絶対に作業しないでください

〈AC100 V電源線の接続方法〉

1. 被ふくを12 mmむく
(線種：Φ1.6～Φ2.0単芯線)

25 mm

12 mm

2. ドライバーの先などでボタンを押しながら、AC100 V電源線を奥まで確実に差し込む

注意

奥まで確実に差し込む

差し込みが不完全な場合、発熱の原因になることがあります。

3. AC100 V電源線の防水ゴムを、カメラの溝に取り付ける

外部センサーを接続する場合のみ

外部入力端子に配線材を接続する

●表面の「外部入力端子について」をよくお読みのうえ、正しく接続してください。

①配線材の被ふくをむく

12 mm

先端のむきしろ

●より線は使えません

②カメラに取り付けられた防水ゴムを取り外し、配線材に取り付ける

防水ゴムのくぼみ部分から配線材を突き通して穴を開け、取り付けてください。

防水ゴム

③配線材を端子に接続し、配線材の防水ゴムを元の位置に取り付ける

●配線材の抜き差しは、端子のボタンをドライバーの先などで押しながらかけてください。

端子ボタン

4 ふたを閉める (カチッと音がするまでしっかり閉める)

5 カメラをスタンドベースに取り付け、固定する

●付属のねじB(4 mm×20 mm、先端が尖っていないねじ)4本で取り付けたあと、ねじ隠しカバーを取り付けてください。

●推奨締付トルク
1.2 N・m(12.2 kgf・cm)

●ねじA(長さ25 mm、先端が尖ったねじ)を使わないよう注意してください。

ねじB

電源コードはここから出す

ねじ隠しカバー

ねじを締めるとき

カメラ本体が正面を向いていると、ねじが締めにくくなります。右の要領でカメラ本体を左または右に回転させたあと、ねじを締めてください。

下から見た図

このねじをゆるめてカメラ本体の向きを左または右に変える

- 取り付け場所のねじ引き抜き強度は、1本あたり294 N(30 kgf)以上です。
(上記の引き抜き強度を確保できない場合には、必ず十分な強度を確保できる補強を行ってください)
- インパクトドライバーは使わないでください。(ねじの破損や締めすぎの原因になります)
- 隣家と近接した場所に設置するときは、LEDライトの光が隣の家に迷惑をかけないようにカメラの角度を調整してください。

6 カメラ本体の角度を調整する

(下から見た図)

ねじ①

ねじ②

●ねじ①②の推奨締付トルク
0.7 N・m(7.1 kgf・cm)

〈左右の角度調整〉

1. ねじ①をゆるめ、左右の角度を調整する

2. ねじ①を締める

〈上下の角度調整〉

1. カメラ本体を片手で支えながら、ねじ②をゆるめて上下の角度を調整する

2. ねじ②を締める

7 カメラの電源を入れ、テレビドアホンで、カメラモニターを行い、撮影範囲の映像と音声を確認する(❷ テレビドアホンの取扱説明書)

- 付属の電源コードをお使いの場合は、屋外用のコンセントに差し込んでください。
- 撮影範囲がずれていたときは、カメラの角度を調整し直してください。
- テレビドアホンに子機が付いているときは、カメラの設置場所に子機を持ち出してカメラ映像を確認しながら、カメラの角度調整を行うことができます。

8 角度調整が終わったら、安全ワイヤーを壁に取り付ける

- 安全ワイヤーは、たわませた状態で取り付けてください。
- 壁への取り付けについては「外壁材の種類に応じた注意事項」(❷ 下部)を必ずお守りください。
- 万一、カメラが壁から外れた場合に、人に当たらないよう、安全ワイヤーは、なるべく高い場所に取り付けてください。
- カメラにぶらさがったりしないでください。

9 センサーの検知状況の確認と、センサー検知による録画のテストを行う(❷ 右記)

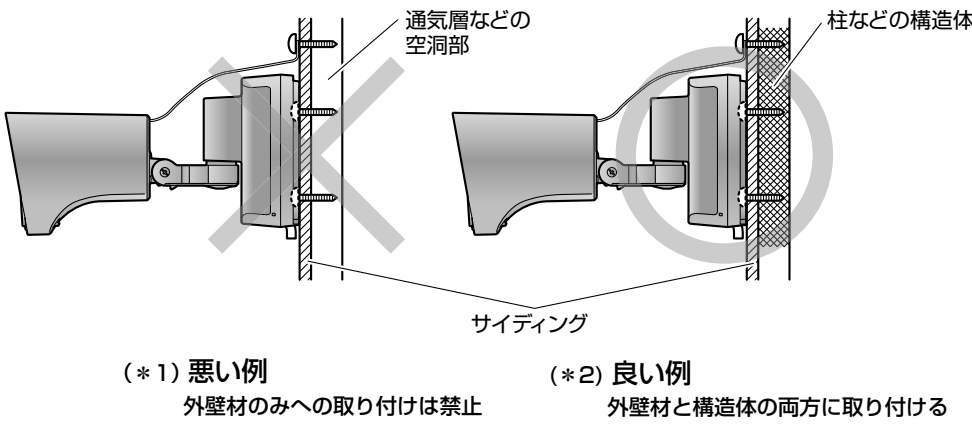
外壁材の種類に応じた注意事項

サイディングの場合

- 付属のねじA(呼び径4.0 mm、長さ25 mm)をお使いください。その際、ねじの引き抜き強度は、必ず1本あたり294 N(30 kgf)以上を確保できるように設置してください。
- サイディング外壁だけで重量を支持するとサイディングが損傷するおそれがあります。(*1)必ず、サイディングの内側にある柱などの構造体で支持できる場所に設置してください。(*2)
 - ・サイディングの厚みなどにより、構造体で支持できない場合は、市販のねじ(呼び径4.0 mm、長さ25 mmより長いもの)を使用してください。
- サイディングの材質に適したドリルで下穴を開けてください。
下穴を開けたあとは、粉を取り除いてください。

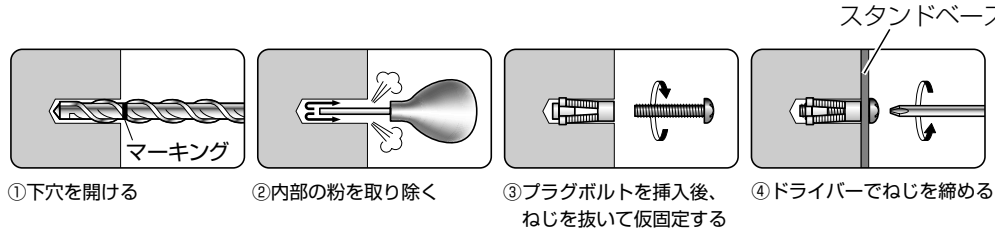
お願い

サイディングの内側の構造体には、下穴を開けないように注意してください。



コンクリートの場合

- 付属のねじは使えません。
市販のコンクリート用プラグボルト(ねじの呼び径4.0 mm、かつ、⊕ドライバーで締められるタイプ)をお使いください。それ以外のタイプのねじでは、取り付けできません。
- 取り付け時の注意
 - ・取り付け前に、プラグボルトの説明書をお読みいただき、ドリル径と穴の深さを確認してから、プラグボルトを壁に取り付けてください。
 - ・下穴を開けたあとは、粉を取り除いてください。



ALC(軽量発泡コンクリート)の場合

- ALCパネルの種類(厚みなど)によっては取り付けられない場合もあります。
取り付ける前に、ALCパネルメーカーにお問い合わせください。

〈取り付け可能な場合〉

- 付属のねじは使えません。
- 必ず、市販の金属製のALC用アンカー(ねじの呼び径4.0 mm、かつ、⊕ドライバーで締められるタイプ)をお使いください。それ以外のタイプのねじでは、取り付けできません。
- 取り付け時の注意
 - ・取り付け前に、アンカーの説明書をお読みいただき、ドリル径と穴の深さを確認してから、アンカーを壁に取り付けてください。
 - ・ALC用ドリルで下穴を開けたあとは、粉を取り除いてください。
 - ・下穴の周囲部を防水シール材(市販品)で防水処理をしてください。

その他の壁(モルタル・タイル材など)

- 付属のねじは使えません。
住宅会社または工務店にお問い合わせのうえ、適切なねじやアンカーを使って取り付けてください。
- 石こうボード、コンクリートブロック、屋外に露出した木材などには設置できません。

センサーの検知状況を確認する

ドアホン親機を使って、人感(熱)センサーや動作検知による検知状況を確認します。
●下記はVL-SWD501KLの例です。ご使用のテレビドアホンの取扱説明書をお読みください。

1

ドアホン親機のトップメニューから
[設定/情報]→[設定を変更]→[接続機器の設定]→[カメラ]→カメラ番号→[センサー設定]→[センサー確認]の順にタッチし、右の画面が出たら、確認するセンサーの種別をタッチする

カメラ1/センサー設定/センサー確認

人感センサー
動作検知
外部センサー

カメラ側がセンサー検知待ち状態になり、現在のカメラ映像が表示される

2

約20分以内に
カメラ側でセンサーを反応させる

■検知させたい被写体で確認
検知させたい場所、人物の進行方向で、センサーが検知するかどうかを確認してください。
■検知させたくない被写体で確認
道路を行き来する通行人や車など、検知させたくない被写体でセンサーが誤って検知しないかどうかを確認してください。

●センサーが反応すると…
・カメラのLEDライトと状態表示ランプが点滅する
・ドアホン親機は、手順1で選んだセンサー種別に
応じて右記のような表示になる

困ったわ

「人感(熱)センサーの場合」
●「人感(熱)センサー感度」の設定を変える
(感度を上げる)
「動作検知の場合」
●「動作検知感度」の設定を変える
(感度を上げる)

「人感(熱)センサーの場合」
●「人感(熱)センサー感度」の設定を変える
(感度を上げる)
●「動作検知感度」の設定(感度を下げる)
●「動作検知範囲」の設定(範囲を変える)

「動作検知の場合」
●「動作検知感度」の設定(感度を下げる)
●「動作検知範囲」の設定(範囲を変える)

3

終わったら、**終了**を押す

お知らせ

●センサー確認でのカメラ映像は約20分で自動的に終了します。確認の途中で20分経過したときは、最初からやり直してください。
●市販の外部センサー接続時も、上記の操作で外部センサーの動作確認ができます。

適切に検知しない、または誤って検知してしまうとき

■適切に検知しないとき
「センサー感度/検知範囲の調整方法」
(右記)を参照のうえ、下記の調整をしてください。
「人感(熱)センサーの場合」
●「人感(熱)センサー感度」の設定を変える
(感度を上げる)
「動作検知の場合」
●「動作検知感度」の設定を変える
(感度を上げる)

■誤って検知してしまうとき
「センサー感度/検知範囲の調整方法」
(右記)を参照のうえ、下記の調整をしてください。
「人感(熱)センサーの場合」
●センサー範囲調整キャップを使う
●人感(熱)センサーの角度を変える
●「人感(熱)センサー感度」の設定を変える
(感度を下げる)
「動作検知の場合」
●「動作検知感度」の設定(感度を下げる)
●「動作検知範囲」の設定(範囲を変える)

センサー検知による録画のテストをする

センサー検知による録画で、検知前後の映像が適切に録画できているかを確認します。
●ドアホン親機の操作はVL-SWD501KLの例です。
ご使用のテレビドアホンの取扱説明書をお読みください。

1

ドアホン親機のトップメニューから
[設定/情報]→[設定を変更]→[接続機器の設定]→[カメラ]→カメラ番号→[センサー設定]→[録画のテスト]の順にタッチし、右の画面が出たら、メッセージを確認して[次へ]を選ぶ

「次へ」ボタンを押してから
センサーを反応させてください。
センサー検知結果は「戻って再生」ボタン
で確認してください。

戻る 次へ

カメラ側がセンサー検知待ちになる

2

約20分以内に
カメラ側でセンサーを反応させる

●ドアホン親機では、右記のように表示され、検知時の映像が一時的に録画される(静止画で最大4枚)

例) 人感(熱)センサーが反応した場合

再テスト 設定へ戻る

録画が完了すると表示される

3

録画が終わったら、
[戻って再生]をタッチして
録画した画像(①～④)を確認する

●①～④の画像にタッチして、それぞれを
拡大表示することもできる
●再度、録画のテストをするには
右の画面で[今の映像へ]をタッチし、
手順2の画面が表示されたら
[再テスト]をタッチする

今の映像

① 検知1秒前の画像
②～④ 検知から約2秒後までの連続画像

「検知前録画」(取扱説明書17
ページ)の設定により、検知2秒前
から録画するように変更する
こともできます。

4

終わったら、**終了**を押す

お知らせ

●ここでの録画は一時的な確認用のため、ドアホン親機には保存されません。
(カメラ映像の録画・保存には、SDカードが必要です)
●録画のテストで表示されるカメラ映像は約20分で自動的に終了します。
確認の途中で20分経過したときは、最初からやり直してください。

センサー感度 / 検知範囲の調整方法

人感(熱)センサーの場合

センサー範囲調整キャップを使う

人感(熱)センサーで検知させたくないものがある場合、センサー範囲調整キャップを取り付けることによって、検知範囲を調整することができます。

■センサー範囲調整キャップの種類と検知範囲

標準のキャップ(本体に装着済み)のほかに、4種類(キャップ1～4)あります。
各キャップは、ふさぐ範囲が異なり、45度単位で回転させて取り付けることができます。
下記を参照のうえ、適切なキャップを適切な方向で取り付けてください。
●検知範囲は、「人感センサー感度」(右下)の設定が「標準」の場合の目安です。
(カメラ設置場所の周囲温度により変わります)

| キャップの種類 | 検知範囲の目安(カメラを上から見た図) | | |
|---------------|---------------------|---------------|---------------|
| | 20℃のとき | 0℃のとき | 30℃のとき |
| 標準 (本体に装着) | | | |
| キャップ1 | (例) キャップ1 | (例) キャップ1 | (例) キャップ1 |
| キャップ2 | (例) キャップ3 | (例) キャップ3 | (例) キャップ3 |
| キャップ3 | | | |
| 片側を検知させたくないとき | | | |
| キャップ4 | | | |
| 両側を検知させたくないとき | | | |

●センサー範囲調整キャップを取り付ける角度に応じて、図の検知範囲も回転します。

例1) カメラから見て右側に、検知させたくないもの
(隣家の壁や道路など)があるとき

検知させたくない範囲に応じて、キャップ1～3
のいずれかを右図の向きで取り付ける

例1

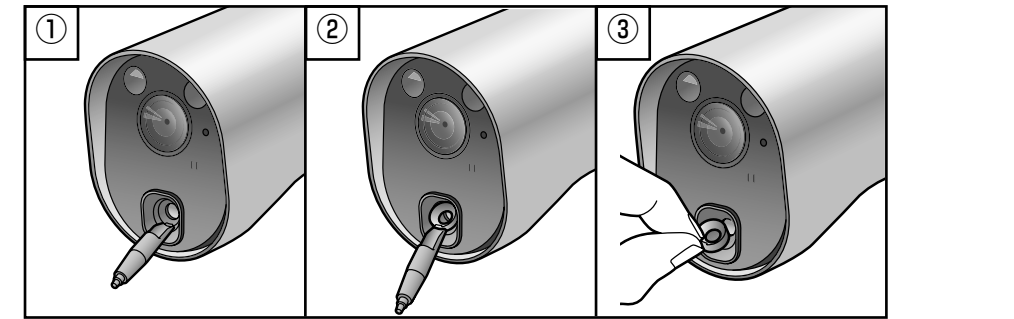
例2) カメラから見て左上に、検知させたくないもの
(車道の車など)があるとき

検知させたくない範囲に応じて、
キャップ1～3のいずれかを、
上図の向きで取り付ける

例2

■センサー範囲調整キャップの取り外し / 取り付け

〈取り外すとき〉 付属のへら(先が太いほう)を使って取り外してください。



〈取り付けるとき〉

キャップの種類や取り付け角度に応じ
て、キャップのツメを上方向または斜め
45度に回転させてから、右図のように
カメラ本体に取り付けてください。

ツメ

動作検知の場合

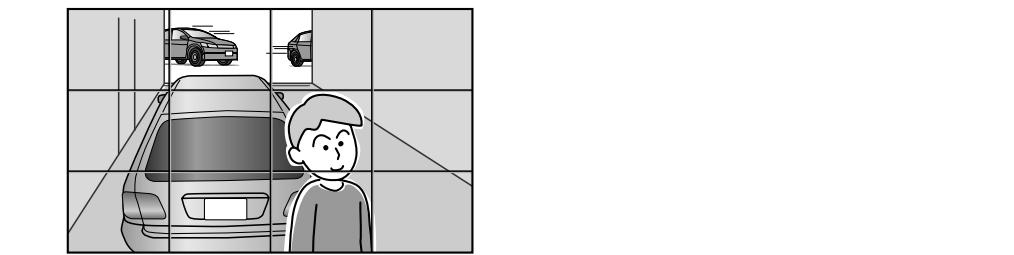
動作検知の検知範囲設定を変える

ドアホン親機を使って、カメラの「動作検知範囲」の設定を変更します。
●設定画面上の12ブロックから、動作を検知させたくない場所(エリア)を選択することで、
検知範囲を絞り込むことができます。

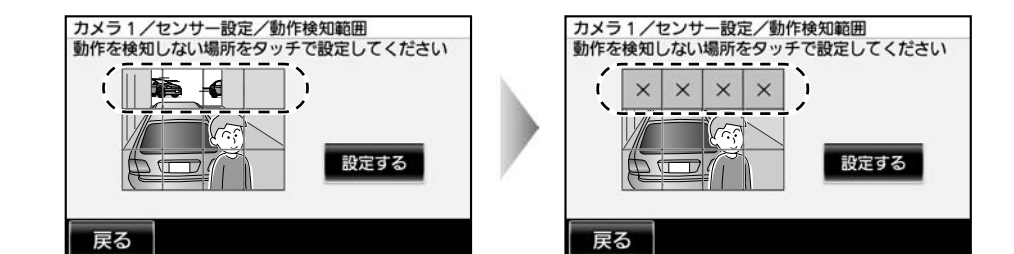
設定の変えかた(例: テレビドアホンVL-SWD501KL)

ドアホン親機の機能設定で、[接続機器の設定]→[カメラ]→カメラ番号→[センサー設定]→
[動作検知範囲]→12ブロックから検知させたくないエリアを選んで[設定する]をタッチする

(例) 動作検知の検知確認で、画面上部に検知させたくない車道の車が映るとき



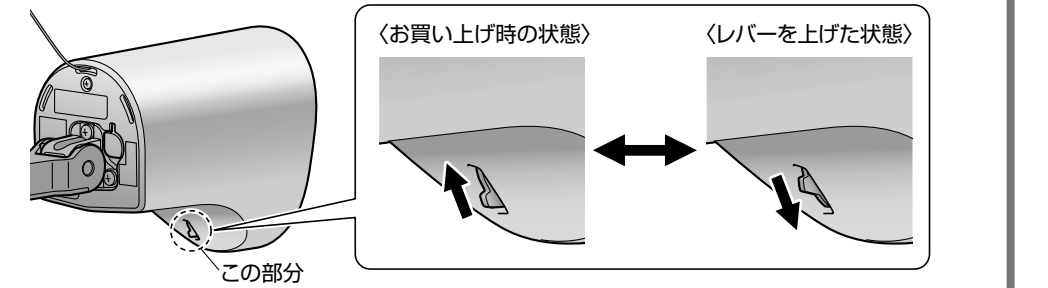
動作検知範囲の設定画面で、検知させたくない車道のエリアを選ぶ



「×」部分は動作検知されなくなる

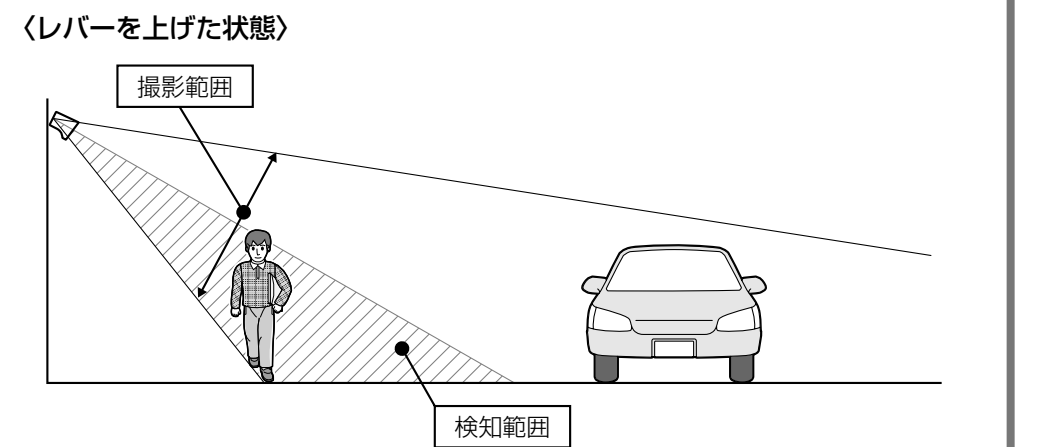
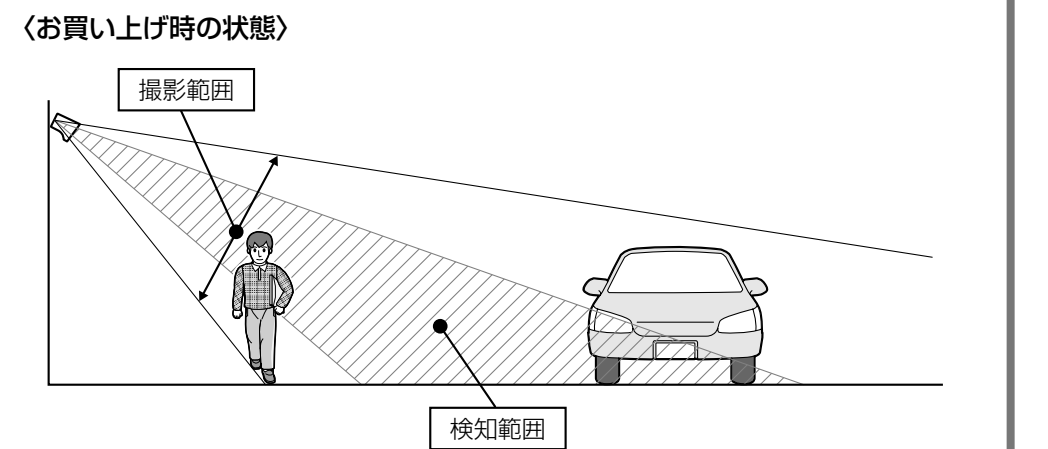
人感(熱)センサーの角度を変える

カメラ本体にある人感(熱)センサー可動レバーを使って、センサーの角度を2段階で調整
できます。



■レバーの位置とセンサーの検知範囲

下記の検知範囲は目安です。(設置場所の周囲温度や環境により変わります)



人感(熱)センサーの感度設定を変える

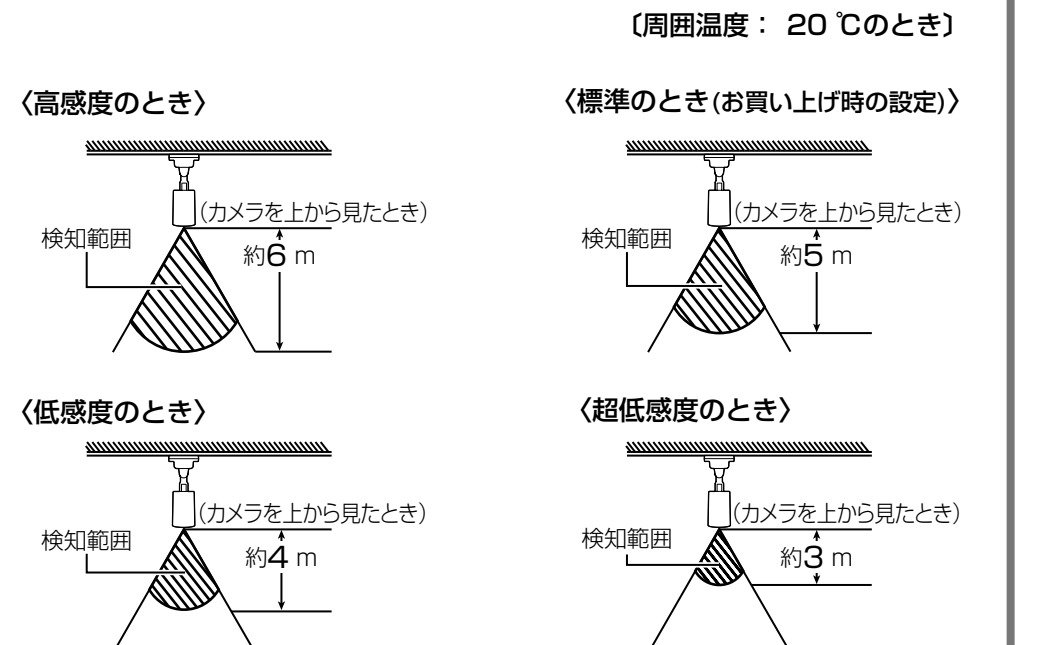
ドアホン親機を使って、カメラの「人感センサー感度」の設定を変更します。
(設定した感度によって、人感センサーの検知範囲が変わります)

設定の変えかた(例: テレビドアホンVL-SWD501KL)

ドアホン親機の機能設定で、[接続機器の設定]→[カメラ]→カメラ番号→[センサー設定]
→[人感センサー感度]→設定したい感度を4つのレベルから選ぶ(タッチする)

■人感センサーの感度設定と検知範囲

下記の検知範囲は目安です。(設置場所の周囲温度や環境により変わります)



お知らせ

●「高感度」に設定すると、風や撮影範囲外で反応しやすくなります。
(設置場所の環境でやむを得ない場合のみ、この設定をご使用ください)

動作検知の感度設定を変える

ドアホン親機を使って、カメラの「動作検知感度」の設定を変更します。
(設定した感度によって、動きの変化を検知するレベルが変わります)

設定の変えかた(例: テレビドアホンVL-SWD501KL)

ドアホン親機の機能設定で、[接続機器の設定]→[カメラ]→カメラ番号→[センサー設定]
→[動作検知感度]→設定したい感度を4つのレベルから選ぶ(タッチする)

■動作検知の感度設定(4レベル)

・高感度
・標準(お買い上げ時の設定)
・低感度
・超低感度

小さな動きの変化も検知したいときは「高感度」、
過度に検知したくない場合は「低感度」「超低感度」
を選んでください。